

二〇二五年度B方式入学試験問題 二時限目 国語

二月五日

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
- 二、監督者の指示に従い、別紙解答用紙の所定欄に氏名、受験番号を記入すること。さらに受験番号の下マーク欄に受験番号をマークすること。
- 三、解答はすべて、解答用紙の解答欄にマークすること。
- 四、試験時間は六十分、問題は17ページ。

マーク記入上の注意

- (1) 解答欄にマークするときは、HBの黒鉛筆でつぎの正しい例のように濃く正確にぬりつぶすこと。解答は、該当の解答番号の解答欄にマークすること。例えば、解答番号 10 の問に対して、
- (2) ②と解答する場合は

10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

のようにマークすること。

悪い例

5	4	3	2	1
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

○印でかこむ。

中身をぬりつぶしていない。

レ印をつける。

―印をつける。

一欄に二つ以上マークする。

このような記入をしてはいけない。

- (3) 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおすこと。

1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

のように×印をしても消したことになる。

- (4) 解答用紙を折りまげたり、破ったり、また汚したりしないこと。

第一問 左は、青木保『異文化理解』の一節である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

文化におけるコミュニケーションについては、イギリスの社会人類学者エドモンド・リーチにならって私はだいたい三つのレベルがあると考えています。

ひとつは「自然」のレベルです。人間は物が飛んでくれば本能的によけるし、寒くなれば衣服を着る、おなかをすけばご飯を食べる。そういうごく自然とよべる状態は、どんな文化を通して変わらないだろうということです。私たちが世界のどこへ行ってもなんとなく生活できるのは、絶対的な人間の条件はどこへ行っても似ているからです。

どんな異なった文化を持った人々の間でも、ある程度共生ができて、ある程度意思が通じるというのは、人間としての共通の属性を持っているからだということがいえます。

ごく自然なこととして互いに人間ならばわかりあえるような、誰でもだいたい理解できる形でのこうしたコミュニケーションの段階を「信号的なレベル」とリーチは言っています。

ただ、そうはいつでも私には次のようなことも問題としてあるように思えます。日本には象のような巨大動物はいませんが、スリランカに行くと象がたくさんいて、スリランカの人は象に対しては愛着もあると同時に恐怖も抱いています。みだりに象に近寄ってはいけないし、近くに寄っていつてフラッシュをたいて写真を撮ろうものならスリランカ人が血ソウを変えて飛んできます。巨大動物がいる自然環境に育っている人間と、日本のようにいないところでは、自然観がだいぶ違ってくるし、価値観も違ってくると思うのです。ですから、同じ自然環境といっても、必ずしもそう簡単には同一視できないのですが、それでも一応はわかりあえるのです。相手がカーツと怒ったから逃げるとか、普通人間が「自然」に起すような条件反射的なレベルで理解できるコミュニケーションがある。それが異文化理解の最初の段階だと思っています。

そして異文化理解の二つ目の段階は「社会的」^Bレベルです。社会的な習慣とか取り決めに知らないと文化を異にする相手も異社会も理解できないということです。

交通信号の表示の仕方を知らなかったら事故を起してしまうし、車を運転するアメリカ帰りの日本人がよくやってしまうのですが、いつのまにか車道を反対に走ってしまっています。右ハンドル、左ハンドルの違いという訳ですが、アメリカやヨーロッパ大陸は左ハンドル、日本やイギリスなどは右ハンドルです。また服装では、いまや洋装を当たり前とする日本人男性にとつていまだにタキシードを着るのは不得手で、普通は持っていない人も多いし、日本国内ではめったに着ることもありません。結婚式のとくに着るくらいのものです。ところが、アメリカやヨーロッパ社会に行けば、週末にはタキシードが必要なパーティがあります。礼服の着用だけでなく服装については西欧の社会的な習慣や常識を知らないと間違ふことがたくさんあります。これはあいさつの仕方や食事のマナーについても言えることでしよう。

けれどもこうしたことは、例外はあるとしても人間が普通に育つてきて得られる常識のレベルで消化できる理解だと思ふのです。どの社会に行つても、一つの社会で培つた常識的なことが取得できれば、インドに行こうがアメリカに行こうがある程度は間違ひなくやっていける。わからないことでもその人に教えてもらつてその習慣あるいは、社会的な規則を学習すればできるわけです。これをリーチは「記号的なレベル」というわけです。

このように、「自然的な」ことや「社会的な」レベルのことは、普通に育つた人間ならだいたひ対処できることですが、三つ目のレベル、これは「^C象徴」というレベルですが、これがまさに文化的な中心部のことで、外部の者にとつてはきわめて理解するのが困難な世界なのです。

すなわち、その社会なら社会特有の価値なり、行動様式なり、習慣なり、あるいは信仰があります。信仰となると、たとえばキリスト教を信じている人には十字架^⑦は意味を持ちますが、信じていない人間にとつては何の意味も持ちません。社会のレベルまでは交通信号のようなものですから、その社会で生活する誰にとつても意味を持つことが多いわけですが、象徴のレベルになると、その価値とか意味を共有している人間しかわからないということになります。日本の文化でも、外国人にとつてわかりにくいのはだいたひこの部分です。

日の丸が日本の象徴といわれても、どうして象徴なのか、あまり、はつきりしません。それを国旗として象徴としたのは日本

人の選択だったと思いますが、普通は外から見れば日の丸と日本という国家の間に何の物理的な関係も論理的な結びつきもないから、それだけでは外部の人には理解できないことでしょう。単なる象徴であり、メタファーです。アメリカ合衆国の国旗が星条旗というのはある程度理屈で説明がつかまずし、フランスの三色旗にもはっきりとした意味があります。しかし、国旗とそれでは何のことかよく解りません。その国の固有の価値や理想と結びついていて、ただ外から見ただけでは何のことかよく解りません。その国の固有の価値や理想と結びついていて、ただ外から見ただけでは何のことかよく解りません。その国の固有の価値や理想と結びついていて、ただ外から見ただけでは何のことかよく解りません。

そのようなことがあらゆる社会で特有の現象としてあって、それについてはよほどシチュウ^⑦到にその文化を理解しないと、別の文化から来た人間にとっては理解できないのです。先に触れたイギリスの社会人類学者は、いま述べたような文化とコミュニケーションの仕組を細かく分析しています。より詳しい分析はリーチの書物を参照していただくことにして、いまこのように両手に触れただけでも異文化を理解していくにはさまざまなレベルがあることがわかんと思います。しかも、忘れてはならないことは、「a」「b」「c」の三レベルは総体として異文化を形づくるということです。この文化の全体性の中にさまざまな要素が組み込まれて、人々の言葉と行動に意味づけをしているわけです。

〔中略〕

近代化は、もともと西欧から始まりましたが、今や世界中どこでもそれがある程度受け入れており、その中での人間の行動の常識も生まれてきました。自動車を使うようになれば道路に信号ができるという具合にルールができてきて、どこへ行っても近代化が及んでいるところでは、共通性というものが一応見られます。

かといって、文化とか象徴というものは消えてはいません。日本は、儒教や仏教の影響を受けましたが、それと同時に神道があり、これは日本人独自の信仰です。近代社会になって西欧やアメリカの文化的影響を強く受けましたが神道は廃れませんでした。それどころか巧みに時代の変化に適応して人々に影響をあたえています。自動車にお祓^{はら}いをしたり、受験生のために合格祈

願を行なったりというわけで、新年には多くの人々が神社にお参りをします。

こういうことを理解しようとする、日本文化を非常に象徴的なレベルで深く理解しなくては行けないし、それが現代日本を理解する場合でも非常に大きな意味を持っているのです。天皇制とも深く結びついていることですし、二〇〇〇年にも総理大臣に「神の国」発言がありました。政治的な意味も依然として大きいのです。

一般に、異文化といっても慣れてしまえば同じだと思いがちですが、それは社会的なレベルにとどまっている場合が多いのです。その文化の価値とか象徴を理解するところが異文化理解のひとつの大きな困難であると同時に、大きな課題なのです。

先のエドモンド・リーチも指摘しているように、コミュニケーションが成立するには、Xという人がある種のメッセージを発信して、受け手のYという人がそれをきちんと受信できることが必要です。そのメッセージをどういう形で送るか、これにはいろいろな形があつて、直接話をする場合もあれば、手紙という形もある。さらには、過去の遺物がメッセージを送ってくるということもあります。遺跡とか、平安時代に書かれた文章とか、寺院の建築とか、そういうものも現代人にメッセージを送っているわけで、自文化といわれるものの中でも古い昔のこととなるともう異文化とよんでもいい場合があります。異文化のメッセージはいろいろな形で発信されるわけですから、それをいかに受け取るか、理解するか、受容するか、ということが大きな問題です。

その場合に、前述した三つのレベルがあつて、共通に理解できる部分と、その文化特有のものとして理解しなければならないものがあるということを、まず前提として考えなければなりません。

異文化理解が非常に困難なのは、その文化に属する人たちにとっては自明のことだが、他の文化の人には決して自明であるどころか往々にしてよくわからないということです。

日本人は小さいときから神棚を身近に見てきて、これを当たり前だと思つていますが、外国人が見れば非常に不思議な感じがするでしょう。三種の神器といつてもなんのことかわかりません。そういうことは日本文化の中で育つてこないと、理解できないことでしょう。繰り返しになりますが神道的なものは日本の生活と信仰のどこかに常に存在しています。近くには神社もあれ

ば家には神棚もありますし、正月になればお参りに行くし、車を買えばお祓いに行く。日本の現代生活の中に神道的なものはちゃんと生きています。それを外国人が見ればなんのことかよくわからない。現代的な高層ビルのいちばん上に「神社」があって、そのビルにオフィスを構える大企業(エ)の社長がお参りをする。これはなんだということになるわけです。それに多くの日本人の家には神棚と仏壇があります。神道と仏教が同居しているわけですが、神仏併存といっても、イスラームやキリスト教の人たちからすればさっぱり解らないということになるでしょう。世界でも珍しい信仰に属することは確かだと思います。タイなど家の中に仏壇があり、家の外に民間信仰の神棚が祀まつつてある場合がありますが、一般に仏教のような大伝統の宗教が入ってくると、土地の神信仰はその下におかれて民間信仰になってしまうことがアジア各地で見られます。日本のように堂々と神仏併存という形はまずないといつてよいでしょう。しかも、神道は天皇制と結びついていっているわけです。日本人の文化の象徴的なレベルを理解してくれば、それも重要だということが解ってくるのです。

象徴的なレベルの現象は、その文化の圏外にある人にとっては意味がないということが多いのですが、その文化を共有している人間にとっては非常に有意義なことなのです。神さん仏さんとごく普通に日本人の大半はいうわけです。

では、象徴的なレベルを理解するということ、言い換えれば、文化を翻訳するFということは可能なのでしょうか。

〔中略〕

文化の翻訳というのは、一つの文化の象徴的なことをいかにわかりやすく他の文化に伝えるかということが中心であって、必ずしも言葉を逐語的に訳せば理解できるというものではありません。その場合には言語と非言語の両方のコミュニケーションの仕方をあわせて考えなくてはならないのです。

リーチが言っているように、非常に複雑な理解への段階をふんで文化のコミュニケーションというのが行われているわけです。

から、それを一つ一つたどることを意識しながら、異文化を理解していく必要があるということです。とくに象徴的なレベルは、私たちが考えている理屈とか常識がなかなか通じない世界であって、通じないと同時に、その文化特有な現象として現れてくる、その特有な現象がその社会では大きな価値を持っていることを理解しなければなりません。これは再三強調したい点です。

情報化社会と盛んにいわれていますが、私たちが注意しなければならないのは、情報には二つのタイプがあるということです。それは「速い情報」と「遅い情報」です。情報と異文化理解というのは意外と難しい関係にあるのです。つまり、異文化については常に情報は流れると仮にしたところで、ほとんどの場合、それは速い情報として流れます。特にテレビを中心としたマス・メディアの世界では、アメリカといえば国際的な政治問題が起きるとホワイトハウスがぱっと映されますし、経済となるとマンハッタンの街をゆく人たちといった風景、中国では政治だと天安門、経済だと上海の賑わい^{にぎ}などが情報として流される。しかし、そこで実際どういう政治が行われ、経済が動いているのかとなると、速い情報だけではどうにもなりません。マス・メディア時代に私たちが日常の中で情報として受け取っているのはほとんどが速い情報なのです。実は異文化理解、特に異文化とのコミュニケーションをはかる場合には、遅い情報に注意を向けなければならないと思うのです。

どうして遅い情報かといいますと、先ほど述べたように、それが象徴的なレベルの現象とからみ合って、一見したところでは、その情報の意味がはつきりわからないことが多いからです。^オ即^オダ^オン^オ的に理解できる情報と、その情報の意味を理解するのに非常に時間がかかる情報とが存在するということです。情報を運ぶ手段は非常に速くなりましたけれども、その情報が理解される時間には依然として長くかかるものがあるのです。

ブルーストの『G』^Hという有名な小説がありますが、最近、新たに翻訳されたものを読んで非常にわかりやすいと感じました。一九世紀から二〇世紀の初めにかけてのフランスの上流社会のことを書いたもので、これまでもいくつか翻訳書は出版されているのですが、私自身今回の翻訳で初めてその世界に入ってゆけると思いました。それは翻訳文が大変わかりやすいということもありますが、同時にいまやフランス文化に対する全体的な情報が豊富になったからです。日本がフラ

ンスと接触して一〇〇年以上になるわけですが、フランスのいろいろな情報が日本の中に氾濫してきて、異文化としてのフランス文化を理解する土台がある程度整備されてきたからだと思うのです。いろいろな情報の蓄積、あの小説の舞台となったパリやフランスの地方へも気軽に旅行ができるようになったこと、それにテレビなどのメディアがフランス社会と自然のさまざまな面についても日常的に伝えているということがあります。ようやく一般の日本人にとっても文化のメッセージとしてブルーストの小説の背景が伝わる形になったのではないかと思うのです。あの小説は一九二〇年代に完結した（一九二七年最終巻出版）わけですから、約七〇年かかってようやく日本人一般に理解される情報となって現れたといってもよいでしょう。時代小説の人気作家であった故・池波正太郎は五〇歳をすぎてから初めてフランスへ出かけて、フランスについてのすばらしいエッセイを遺のこされていますが、若いときから親しんだフランス映画でフランス文化と社会のことを知っていたので、実際にパリに行ったとき少しも違和感がなかったと書いています。異文化理解のためのいろいろな蓄積があって初めて理解できるようになるという例ではないでしょうか。

つまり、異文化理解に対しては、拙速ということがいちばんよくないということです。遅い情報として受け取るべきものを、現代の人間は速い情報として受け取ってしまう。そこに誤解が生じます。

問 1 傍線部 A の意味として、最も適切なものを次から選べ。

1

- ① しつこく
- ② おもむろに
- ③ むやみに
- ④ なれなれしく
- ⑤ ひっそりと

問2 傍線部Bの説明として、最も適切なものを次から選べ。

2

- ① ある社会で一般に培われる常識的なことを知らない者であっても、その意味を理解できるレベル
- ② 留学経験などの複数の文化圏における生活を通して培われる、人間として不可欠な資質のレベル
- ③ 交通信号の表示方法のように、同じ規則をもつ社会の人々の間でなければ、その意味の理解が困難なレベル
- ④ 異なった文化を持った人々の間でも互いにわかりあえるような、人間としての共通の属性のレベル
- ⑤ 自分の育った社会で身につけた習慣や社会的な規則を基にして、異社会でもある程度は対処できるレベル

問3 傍線部Cに関する記述として、最も適切なものを次から選べ。

3

- ① 象徴には、誰にでも共通に理解できる部分と、社会に固有な価値や意味を共有しなければ理解できない部分がある
- ② 日本の車道が左側通行なのは象徴的なレベルの現象なので、異なる文化圏の人たちにとっては意味がないことが多い
- ③ 日本文化に関する単なるメタファーにすぎないものについては、異なる文化圏の人たちでもだいたい理解できる
- ④ 象徴は、社会的な常識では理解が困難である一方、その社会にとって大きな価値をもつ現象として現れる
- ⑤ 日の丸と国家の間には物理的な関係も論理的な結びつきもないから、日の丸を理解することは象徴の問題ではない

問4 空欄aからcに入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

4

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|
| ① | a | 象徴 | b | 自然 | c | 信号 |
| ② | a | 自然 | b | 記号 | c | 信号 |
| ③ | a | 信号 | b | 記号 | c | 象徴 |
| ④ | a | 自然 | b | 記号 | c | 社会 |
| ⑤ | a | 社会 | b | 象徴 | c | 記号 |

問5 傍線部Dの「社会的なレベル」における理解の具体例として、最も適切なものを次から選べ。

5

- ① 国によるボディランゲージのもつ意味の違いを理解すること
- ② 日本の受験生が合格祈願のお守りを買う理由を理解すること
- ③ 唐突に激昂^{げきじょう}し始めた話し相手を危険であると理解すること
- ④ それぞれの宗教で特定の食材を食べない理由を理解すること
- ⑤ 国旗とそれで表徴する国との結びつきを理解すること

問6 傍線部Eについて、平安時代に書かれた作品として、誤っているものを次から選べ。

6

- ① 平家物語
- ② 更級日記
- ③ 竹取物語
- ④ 蜻蛉^{かげろう}日記
- ⑤ 伊勢物語

問7 傍線部Fの説明として、最も適切なものを次から選べ。

7

- ① 異なる文化圏の人たちも人間としての共通の属性は同じであることを前提に、相互に情報を伝え合うということ
- ② 外部の者が理解困難な文化の中心的な部分について、言葉だけでなく色々な手段で理解しやすく伝えるということ
- ③ 文化におけるコミュニケーションの三つのレベルが総体として人々の言葉と行動に象徴的な意味を与えるということ
- ④ 象徴のレベルにおける価値や意味を、異なる文化圏の言葉に適切に置き換えて、わかりやすく表現するということ
- ⑤ 文化に特有のものとして理解しなければならないものを、言語的のみならず条件反射的にも受け止めるということ

問 8 空欄 G に入る作品として、最も適切なものを次から選べ。

8

① 失われた時を求めて

② 青い鳥

③ 風と共に去りぬ

④ 誰がために鐘は鳴る

⑤ 異邦人

問 9 傍線部 H の理由として、最も適切なものを次から選べ。

9

① 情報の蓄積が A I によるフランス語の翻訳の質を向上させ、自然でわかりやすい日本語にできるようになったから

② 筆者がいくつかの翻訳書を読んでいたので情報が蓄積されており、翻訳文を理解する土台を形成できていたから

③ 筆者は若いときからフランス映画を観て、フランス文化と社会を理解するためのさまざまな情報を蓄積していたから

④ 日本の中でもフランス文化に関する情報が蓄積されて、小説の背景が伝わる基盤が共有されるようになったから

⑤ これまで出版されてきた翻訳書の蓄積によって、日本人一般にとって理解される言葉で翻訳できるようになったから

問
10

本文の内容と合致するものとして、最も適切なものを次から選べ。

10

- ① 外国人も、天皇が日本国の象徴だということを理解することによって、いまでも神道的なものが生きている日本の文化を象徴的なレベルでも受容できる
- ② 象徴的なレベルの現象と関係する情報は、たちどころに理解することが困難なので、時間をかけて受容していくことが異文化理解にとって大切である
- ③ 異文化理解が非常に困難なのは、ある文化に属する人たちにとっても、その文化が必ずしも自明でないどころか、往々にしてよく理解されていないからである
- ④ 巨大動物がいる自然環境とない自然環境では自然観が異なるので、それぞれの環境で育った人々の間では自然的なレベルでのコミュニケーションも困難になる
- ⑤ 人と人、地域と地域、文化と文化、あらゆるものが常識や国境を超えてつながり、価値を生み出し、社会を変えることで、これからの常識が創り出される

問11 文中の二重傍線部⑦から⑩のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを次から選べ。

11

⑦ 血ソウ

① ソウ定外の出題に焦る

② ソウ似した構造の建物

③ 物ソウな世の中

④ 記憶をソウ失する

⑤ 「生き続ける学びがソウ発する場」大阪経済大学

12

⑧ 十字カ

① 環境への負カ

② カ幣を偽造する

③ カ想空間を構築する

④ 未曾有の災カ

⑤ カ空の人物

13

⑨ シュウ到

① 教室を改シュウする

② シュウ末の予定を立てる

③ 警察署をシュウ撃する

④ 廃品を回シュウする

⑤ シュウ囲を見渡す

14

⑩ 大キ業

① 大胆なキ図

② 多キにわたる業務内容

③ 母校にキ付をする

④ 群衆がキ勢をあげる

⑤ 兵役をキ避する

15

⑪ 即ダンの

① 少数民族をダン圧する

② 政府がダン話を発表する

③ ダン結して闘う

④ 学費を算ダンする

⑤ 電線を切ダンする

第二問 左は、鎌倉時代の教訓説話集『十訓抄』の一節である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

昔、元正天皇^{〔注1〕}の御時、美濃^Aの国に、貧しく賤しき男ありけるが、老いたる父を持ちたり。この男、山の本草を取りて、その値を得て、父を養ひけり。この父、朝夕、あながち^Bに酒を愛し、ほしがる。これによりて、男、なりびさ^{〔注2〕}こといふものを腰につけて、酒を沽^うる家に行きて、つねにこれを乞ひて、父を養ふ。

ある時、山に入りて、薪^{たきぎ}を取らむとするに、苔^{こけ}深き石にすべりて、うつぶしにまろびたりけるに、酒の香^かしければ、思はずにあやしくて、そのあたりを見るに、石の中より水流れ出づることあり。その色、酒に似^Eたり。汲みてなむるに、めでたき酒なり。うれしくおぼえて、そののち、日々にこれを汲みて、あくまで父を養ふ。

時に帝、このことを聞^Fこしめして、霊龜^{れいき}三年^{〔注3〕}九月に、そのところへ行幸ありて、御覧じけり。これすなはち、至孝^Gのゆゑに、天神、地祇^{ちぎ}^{〔注4〕}あはれみて、その徳をあらはすと、感ぜさせ給ひて、のちに美濃守^Iになされにけり。

その酒の出づる所をば養老の滝とぞ

J

。かつは、これによりて、同十一月に年号を「養老」と改められける。

〔注〕 1 元正天皇——第四十四代天皇（六八〇～七四八年）

2 なりびさこ——ひょうたんのこと

3 霊龜三年——七一七年

4 天神、地祇——天の神と地の神のこと

問1 傍線部Aについて、今のどのあたりか。最も適切なものを次から選べ。

16

① 兵庫県

② 群馬県

③ 茨城県

④ 岐阜県

⑤ 岡山県

問2 傍線部Bの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

17

① むやみやたらに

② まんざらでもなく

③ 気の毒なことに

④ よくあるように

⑤ 心の底から

問3 傍線部Cの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

18

① うつむいて昼寝をした

② 嘘をついて父をあざむいた

③ 打ち付けて怪我をした

④ うつぶせに倒れ込んだ

⑤ うっかりと道を曲がった

問 4 傍線部Dの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

19

① みっともなく

② 不思議で

③ 危なくて

④ すばらしくて

⑤ 気分が高まって

問 5 傍線部Eの文法的説明として、最も適切なものを次から選べ。

20

① ナ行上一段活用の動詞「似る」の連用形＋存続の助動詞「たり」の終止形

② タリ活用の形容動詞「似たり」の終止形

③ ラ行四段活用の動詞「似る」の未然形＋存続の助動詞「たり」の終止形

④ ナ行上一段活用の動詞「似る」の連体形＋断定の助動詞「たり」の終止形

⑤ ラ行四段活用の動詞「似る」の未然形＋完了の助動詞「り」の終止形

問 6 傍線部Fの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

21

① お聞きになって

② 自然と聞こえてきて

③ 聞き申し上げて

④ お聞かせになって

⑤ 聞かせていただいて

問7 傍線部Gについて、どのようなことを指すか。最も適切なものを次から選べ。

22

- ① 石から湧き出る酒を汲んできて毎日飲ませて、老いた父を酒浸りにさせてしまった親不孝
- ② 貧しい暮らしの中でも老いた父を養い、さらに、父の欲しがる酒をも飲ませてあげていた親孝行
- ③ 酒の湧き出る石がある場所を案内して帝を喜ばせたという、朝廷に対する至忠な行い
- ④ 父のために山に分け入って石から湧き出る酒をせつせと汲み、それを売り歩いていた孝行な態度
- ⑤ 貧しさのあまり、老いた父を十分に養えず、父の好きな酒を買うこともできなかった不運

問8 傍線部Hの文法的説明として、最も適切なものを次から選べ。

23

- ① 使役の助動詞「さす」の連用形
- ② 受身の助動詞「さする」の未然形
- ③ 尊敬の助動詞「さす」の連用形
- ④ 可能の助動詞「さする」の終止形
- ⑤ 自発の助動詞「さす」の已然形

問9 傍線部Iの主格として、最も適切なものを次から選べ。

24

- ① 男
- ② 父
- ③ 帝
- ④ 天神、地祇
- ⑤ 作者

問10 空欄Jに入る言葉として、最も適切なものを次から選べ。

25

① 申す

② 申しけり

③ 申せ

④ 申さず

⑤ 申すか